

## 中学校技術・家庭科における被服領域の教材開発と授業実践

— 浴衣の着付けを通して伝統文化の継承を考える —

福井 典代\*，石丸 千代\*\*，西野 亜貴\*\*，  
大和映理子\*\*，東條 良栄\*\*\*，速水多佳子\*

(キーワード：中学校家庭分野，浴衣の着付け，授業実践，伝統文化の継承)

### 1. はじめに

2016年12月の中央教育審議会による「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では，中学校技術・家庭科（家庭分野）における教育内容の見直しの中に，「主として衣食住の生活において，日本の生活文化を継承する学習活動を充実する」ことが挙げられている。現行学習指導要領（文部科学省，2008）の中でも，衣生活分野の中に「浴衣など和服について調べたり着用したりするなどして，和服と洋服の構成や着方の違いに気付かせたり，衣文化に関心をもたせたりすることなど，和服の基本的な着装を扱うこと」が明記されており，伝統や文化に関する教育の充実が図られている。

伝統文化に関する中学校の家庭科の教材としては，郷土料理の調理（井関ほか，2011；近藤ほか，2015），甚平製作（村上ほか，2011）などが授業実践されているが，実践数は限られている。浴衣の着装に関する授業実践として，ショートパンツの製作活動と関連付けたり（藤井ほか，2012），4時間連続した授業を編成したりしている（川端ほか，2013；薩本ほか，2013）事例はあるが，短時間の授業の中で伝統文化の継承に着目して実践している教材はみられない。

和服は日本固有の衣装であるが，現在の日常生活ではほとんど着用されず，花火大会や成人式など限られた行事の中で着用されているにすぎない。生徒にとっても和服を身近な存在としてとらえる機会は限られている。また，中学校における家庭科の授業時間数は少なく，伝統文化の継承に重点を置いた授業を実践しにくい状況にある。本研究では，和服の一つであり，着付けに必要な用具が少なく，比較的短時間で着用できる浴衣を教材として取り上げた。中学生を対象として，浴衣を着用することを通して日本の伝統文化に興味をもち，受け継いでいくことの大切さを理解できるような授業実践を行い，その効果を検証することを目的とした。なお，和服は，「欧

米の洋服に対するもの，和服はいわば日本の民族衣装に相当するもの」であり，着物は，「着るもの」のことで，衣服という意味にも用いられるが，通常洋服に対し，日本の衣服，つまり和服のことをいい，とくに和服の中でも長着をさすことが多い」（田中，1998）と定義されている。中学生にとって，着物より和服という用語のほうが，洋服との違いを明確に捉えることができるため，本研究では「和服」という用語に統一して研究を進めることにした。

### 2. 和服に関する生徒の実態調査と授業設計

授業実践をするにあたり，中学生がどの程度和服に興味を持っているかについて事前調査を行った。調査対象者は，徳島市K中学校2学年129名である（2016年10月実施）。

授業実践前に実施した和服に関するアンケート調査の内容は，「①浴衣が家にあるか」，「②浴衣以外の和服が家にあるか」，「③和服（浴衣）を着たことがあるか」，「④いつ着たか」，「⑤自分で和服（浴衣）を着ることができたか」，「⑥自分で和服（浴衣）をたためるか」，「⑦和服（浴衣）について学びたい・知りたいか」，「⑧和服（浴衣）を次世代に伝えたいか」，「⑨オリンピックのセレモニーなどで日本人が和服を着て参加することは世界に日本の文化をアピールすることになるか」，「⑩和服（浴衣）を着たいか」，「⑪いつ着たいか」，「⑫和服（浴衣）を自分で着てみたいか」，という計12項目であった。このうち，授業実践直後に同一の内容で調査を行った⑦，⑧，⑫の結果については次項3. 3) で述べる。

事前アンケートの結果，浴衣が家にあると回答した生徒は41.1%であり，半数弱の家庭で浴衣を所有していることがわかった。「浴衣以外の和服が家にあるか」の問に対しては，24.8%の生徒があると回答したものの，わからない生徒が41.1%であり，普段の生活において和服が活用されていない状況がうかがえる。和服（浴衣）を着

\*鳴門教育大学自然・生活系教育部

\*\*鳴門教育大学大学院生活・健康系コース（家庭）

\*\*\*徳島市川内中学校

たことがある生徒は85.3%であり、和服を着た行事として七五三(74.4%)が最も多く、阿波踊り(31.8%)、花火大会(23.2%)で着用されていた。

自分で和服(浴衣)を着ることができる生徒は19.4%であり、8割の生徒は自分で着ることができない。「和服(浴衣)をたためるか」の間については、25.6%の生徒ができると回答し、和服を自分で着ることはできないが、たたむことはできる生徒が少数いることもわかった。「和服(浴衣)を着たいか」では、48.8%の生徒が「とてもそう思う」、「そう思う」と感じていた。「いつ着たいか」については、成人式(37.2%)が最も多く、阿波踊り(29.5%)、花火大会(27.9%)と続く。

以上の結果より、和服を普段の生活で着用する機会は少ないが、阿波踊りや花火大会で浴衣を着用した経験があり、浴衣は生徒にとってある程度関心のある衣服であると思われる。しかし、着付けとなるとほとんどの生徒が自分で浴衣を着たことがなく、自分で着ることができれば和服の柄や帯に対してより興味や関心を持つことができると考えられる。そこで、浴衣の着付けを通して昔から受け継がれてきた日本の伝統文化を知り、これからも受け継いでいく大切さを理解するような授業を実施することにした。

事前調査の結果をふまえて授業を考え、本時の目標を、「和服の着用を通して構成や特性を理解し、和服を受け継いでいく大切さについて考えることができる。」と設定した。この目標にそって、中学校技術・家庭科家庭分野の教科書(開隆堂, 教育図書, 東京書籍)の中で、和服や日本の伝統文化に関する内容について確認しながら学習指導案を作成して授業を実践した。

### 3. 授業実践

前項の中学生の実態調査をもとに学習指導案を作成して、2016年12月に徳島市K中学校2年生133名(男子67名, 女子66名)を対象として、浴衣の着付けと伝統文化の継承に関する授業を実践した。

#### 1) 授業概要

本実践は、1時間(50分)の授業である。まず、様々な和服があることを教室内の掲示物や和服の写真から理解させるとともに、和服の構成上の特性について、洋服と比較しながら気づかせた。次に男女別の4つの班に分かれて、被服室の前で浴衣の着付けを行った(約15分)。浴衣の着付けは3名の大学院学生が指導を行い、各クラス男女2名ずつ体操服の上に浴衣を着装した。浴衣の着装後、座席に戻り、浴衣を着用した感想や和服に関する基礎知識シートをもとに、和服をどのように受け継ぎ、伝えていけばよいかについて班別(1班4名程度)に考えさせてコラージュを作製させた(15分)。授業の様子



写真1 授業の様子



写真2 班活動によるコラージュ作製の様子

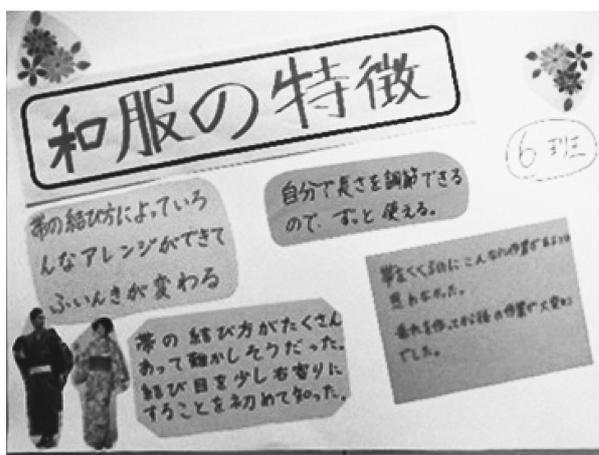


写真3 完成したコラージュの一例

を写真1～3に示す。

本実践において生徒全員に配布した資料は、ワークシートと浴衣の着付け手順の写真である。教室には、女性用浴衣、はんでん、甚平の実物を掲示し、ポスターとして「伝えていこう! 受けつがれてきた日本の技①② 染物と織物」(東京書籍)を掲示した。浴衣の着付けに必

要な準備物は、女性用浴衣、男性用浴衣、腰ひも、伊達締め、半幅帯（女性用、男子用）、ござなどであった。授業の後半部分で行う班活動に必要なものとして、色画用紙、マジック、紙切りばさみ、のり、和服に関する基礎知識シート、和服の写真、トレーなどを準備した。

## 2) 授業実践結果

班別に作製したコラージュに書かれた内容についての集計結果を表1に示す。抽出された生徒の意見を類似した内容ごとにまとめた。コラージュ作製では、各クラス9班、合計36班分の作品が仕上がりに、生徒全員の意見がその中に書かれていた。

生徒個人の意見とともに各班でコラージュのタイトルを考えさせた。考察する時間が限られていたため、「和服のよさ」、「和服のいいところ」などのテーマ設定が多かった。生徒の意見として最も多かった内容は、「色や柄、模様」についての意見であり、27.6%であった。次いで「印象・雰囲気・気分」14.1%、「サイズの調節」10.3%と続いた。「着付けのデメリット」では、「動きにくそうだ」、「難しそうだ」という意見も若干みられたが、幅広い観点から和服の特徴を捉えていた。

「思ったより早く着付けられる」、「普段と違って華やかな雰囲気になる」、「人によって似合う着物が違う」など、浴衣を身近で着付ける様子を観察した生徒や実際に着用した生徒の経験に基づいた意見が数多く抽出された。体験的に浴衣の着付けを行ったことで、実感を伴った考え方が得られた本授業実践の意義は大きい。

表1 コラージュ作製時の和服に関する生徒の意見（重複回答）

生徒の意見	頻度	割合 (%)
色や柄、模様	43	27.6
印象・雰囲気・気分	22	14.1
サイズの調節	16	10.3
着付けに関する感想	14	9.0
リメイク・再利用	13	8.3
着付けの簡単さ	12	7.7
着付けのデメリット	12	7.7
伝統文化・次世代への継承	10	6.4
着心地の良さ	8	5.1
身近にあるもの	4	2.6
アレンジできるもの	2	1.3
合計	156	100.0

## 3) 授業実践前後の和服に対する生徒の意識の変容

授業実践前後において、「和服（浴衣）について（もっと）学びたい・知りたいか」、「和服（浴衣）を次世代に伝えたいか」、「和服（浴衣）を自分で着てみたいか」という質問に対して生徒が回答した結果を図1～3に示す。

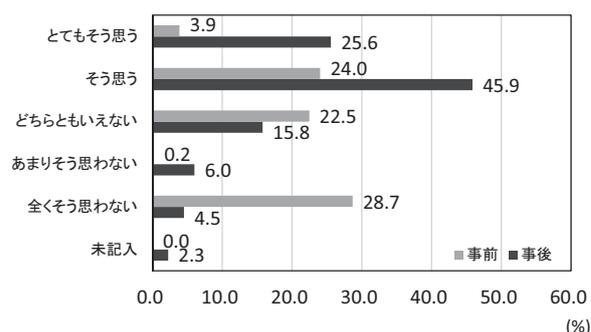


図1 「和服（浴衣）について（もっと）学びたい・知りたいか」についての授業実践前後の比較

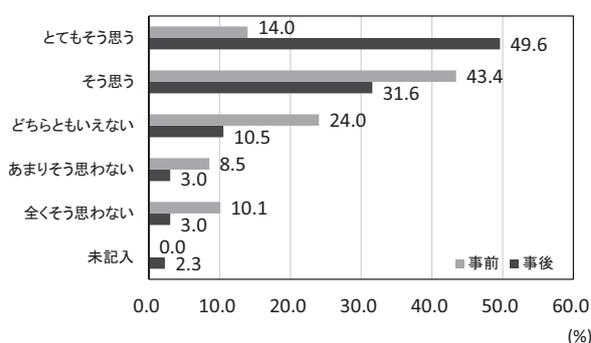


図2 「和服（浴衣）を次世代に伝えたいか」についての授業実践前後の比較

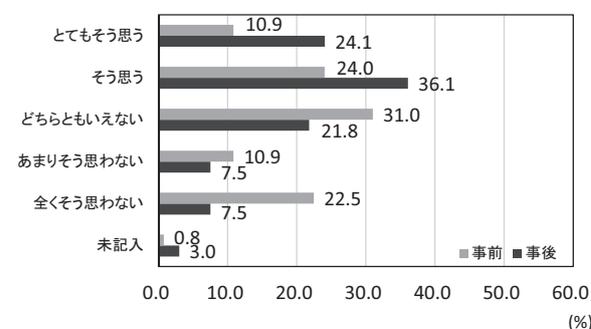


図3 「和服（浴衣）を自分で着てみたいか」についての授業実践前後の比較

「和服（浴衣）について（もっと）学びたい・知りたいか」について、授業実践前は「全くそう思わない」生徒が28.7%であったが、授業後は4.5%に減少した。反対に「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した生徒は27.9%から71.5%へと大幅に増えた。あまり馴染みのなかった和服が、浴衣の着付けを通して生徒達の身近なものへと変化した。しかしながら、1時間のみの授業実践であり、和服の知識としては非常に限られたものであった。

本授業の目的とした「和服（浴衣）を次世代に伝えたいか」についても、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した生徒は、授業実践前の57.4%から授業実践後の81.2%と増加した。実践前から和服を次世代に伝えたい

表2 和服に対するイメージ (授業実践前)

	自由記述の内容	頻度	合計 (%)
肯定的なイメージ	日本の文化, 伝統, 象徴	25	49.7
	きれい	14	
	華やか	4	
	清楚	4	
	おしとやか	4	
	たくさん柄がある	3	
	きちんとしたい場所で着るもの	3	
	きちりしている	2	
	オシャレ	2	
	上品	2	
	大人っぽい	2	
その他	14		
否定的なイメージ	動きにくい	12	38.4
	着るのに時間がかかる	8	
	自分で着るのは難しい	7	
	昔っぽい	6	
	暑い	5	
	日本の昔の服	5	
	重い	4	
	値段が高い	3	
	じゃま	2	
	材質が硬い, 厚い	2	
	普段は着ない	2	
その他	5		
その他	祝う時に着る (結婚式, 卒業式)	4	11.9
	日本人しか着ない	3	
	お祭りのときに着る	3	
	京都の人が着ている, 舞妓	2	
	時代劇	2	
	その他	5	

表3 和服に対するイメージ (授業実践後)

	自由記述の内容	頻度	合計 (%)
肯定的なイメージ	日本の文化, 伝統, 象徴	25	75.8
	意外と簡単に着つけができたと思った	22	
	きれい	19	
	かっこいい	6	
	また着物を着てみたい	6	
	着ているといつもと違う雰囲気	5	
	華やか・あざやか	4	
	とてもいいもの	3	
	落ち着いた	2	
	浴衣は涼しい	2	
	身長が活かされる	2	
	おしゃれ	2	
	楽しい	2	
	その他	13	
	否定的なイメージ	着るのが難しい	
苦しい		2	
動きづらい		2	
その他		4	
その他	色や柄がいろいろある	4	10.7
	現代でもたくさんの人が着ている	3	
	着る人によってイメージが変わる	2	
	行事に着ていく	2	
	その他	5	

意識を持っていたが, 実践を通して「そう思う」より「とてもそう思う」と回答した生徒が顕著に増えた。さらに和服を日本の伝統文化として受け継いでいこうという意識が強くなったようだ。

「和服 (浴衣) を自分で着てみたいか」について, 「とてもそう思う」, 「そう思う」と回答した生徒は, 授業実践前の 34.9% から実践後の 60.2% へと約 2 倍弱増えた。浴衣の着付けを見たり, 実際に着用したりした結果が明確に読み取れた。

授業実践前後に, 和服に対するイメージについて生徒が自由記述した内容をまとめたものを表 2 と表 3 に示す。抽出した用語を, 「肯定的なイメージ」, 「否定的なイメージ」, 「その他」の 3 つに分類した。

授業実践前の和服のイメージとして 159 用語抽出された。授業実践直後には 149 用語となり, 若干用語数は減少した。これはアンケートを記入する時間が非常に短かったためと考えられる。授業実践前には和服に対する肯定的なイメージが 49.7% とほぼ半数であったのに対して, 授業実践後には 75.8% と大幅に増加した。浴衣の着付けを体験することから和服に対する理解が深まったと思われる。特に「日本の文化, 伝統, 象徴」など, 和服に関する班活動を通して考察した内容を含むものが多かった。授業実践前には「きれい」, 「動きにくい」など漠然とした和服のイメージが多かったが, 実践後に「意外と簡単に着つけができたと思った」と肯定的に受け止めている生徒が多い。実践後に「着るのが難しい」と和服を否定的に捉えている生徒もいた。1 時間という限られた授業時間の中で, 生徒全員に着付けを指導するのは難しいが, 和服の特徴や構成の理解が深まるような教材をさらに工夫する必要がある。

#### 4. おわりに

和服の着用を通して和服の構成や特性について理解を深め, 日本の衣服として受け継いでいく大切さについて考えることを目標として中学生を対象とした授業実践を行った。中学生の実態として, 和服を普段の生活で着用する機会は少ないが, 阿波踊りや花火大会で浴衣を着用した経験があったため, 浴衣は生徒にとってある程度関心のある衣服であると思われる。しかし, 着付けとなるとほとんどの生徒が自分で浴衣を着たことがなく, 自分で着ることができれば和服の柄や帯に対してより興味や関心を持つことができると考え, 本研究を進めた。

浴衣の着付けを行うとともに, 和服に関するコラージュ作製の結果, 和服に関して興味や関心が増え, 自分で浴衣を着てみたいと考える生徒の数も増えた。浴衣の着付けを体験したことから, 日本の伝統文化としての和服の特徴を再発見することもできた。本実践では 1 時間

という限られた授業の中で、生徒に和服のよさについてどこまで伝えることができるかという問題を抱えていたが、実践した結果、短時間の授業であっても目標が明確であれば非常に有効な授業ができることが実証された。課題としては、授業者の着付けの技能の習得と維持、着付けをするための準備物の簡略化など、授業者側の負担を軽減できるような授業の提案を考えることが必要である。

## 文 献

- 中央教育審議会，幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28（2016）年12月21日，[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)（アクセス確認2017. 1. 18）
- 藤井志保・村上かおり・一色玲子・谷原千代，中学校技術・家庭 家庭分野における衣生活文化の題材開発—浴衣の着装体験による効果の検証—，広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要，40，pp.147－152，2012.
- 井関富士子・佐々木みか・泉朋子・元木康代・福井典代・西川和孝，地域の食材や郷土料理を用いた中学校技術・家庭科（家庭分野）の授業設計と実践，鳴門教育大学授業実践研究，10，pp.93－97，2011.
- 川端博子・薩本弥生・斉藤秀子・呑山委佐子・扇澤美千子・堀内かおる・井上裕光，ゆかたの着装を題材とする授業実践の試み，日本家庭科教育学会誌，56(2)，pp.78－89，2013.
- 近藤てるみ・丹治美保・加藤みゆき，郷土料理に重点を置いた中学校技術・家庭科の授業開発，香川大学教育実践総合研究，31，pp.39－46，2015.
- 文部科学省，中学校学習指導要領解説技術・家庭編，教育図書，pp.58－65，2008.
- 村上かおり・鈴木明子・一色玲子・藤井志保・林原慎，中学校「技術・家庭」家庭分野における甚平製作を通して考える衣生活文化の題材開発，広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要，39，pp.225－230，2011.
- 薩本弥生・川端博子・斉藤秀子・呑山委佐子・扇澤美千子・堀内かおる・井上裕光・葛川幸恵，ゆかたの着装体験を含む教育プログラム開発をめざした中学校技術・家庭科での授業実践，日本家庭科教育学会誌，56(1)，pp.14－22，2013.
- 田中千代，新・田中千代服飾事典，同文書院，p.235，p.1162，1998.

## 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

### (1) 本時の目標

和服の着用を通して構成や特性を理解し、和服を受け継いでいく大切さについて考えることができる。・・・(工夫・創造)

### (2) 展開

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
2分	・実物投影機 ・和服の写真	1. 本時の目標を知る。	○和服の種類を知ることで、和服が身近な存在であることに気づかせる。 また、教師が浴衣を着て授業を行うことで、本時の内容に興味をもたせる。	
3分	・ワークシート ・浴衣の着付け手順の写真	2. 様々な和服があることを知る。	○いろいろな場面において和服を着用していることに気づかせる。	
5分	・構成についての貼物 ・反物 ・はんでん、甚平等	3. 平面構成と立体構成について知る。	○和服の構成上の特性を洋服と比べることで考えさせる。	
15分	・男女の浴衣各3セット ・ござ 6枚	4. 男女に分かれ、浴衣の着付けを見る。 5. 男女各2名ずつ浴衣を着る。 6. 着用した感想を発表する。	○着装のしかたやポイントについて着付けを行いながら説明する。 ○着用して気づいた和服の良さを発表させる。 ○和服の無駄のないつくりやリユース・リメイクのしやすさに触れる。 ○和服が身近な衣服であると実感させる。	
15分	・画用紙 ・コメント用紙 ・コラージュ用素材 ・のり ・紙切りばさみ ・マジック ・和服に関する基礎知識カード	7. 和服をどのように受け継ぎ、伝えていけばよいか考え、班ごとにコラージュを作製する。完成した班からコラージュを黒板に貼る。	○和服を伝承していく大切さに気づかせ、自分なりの受け継ぎ方を話し合わせる。	[工夫・創造] 和服の着用を通して和服についての理解を深め、自分なりの課題に対して継承方法を考え工夫している。(ワークシート)
10分	・トレー	8. 本時のまとめ。アンケートに記入する。	○出来上がったコラージュを見てどのような意見が上がったか、教師がまとめる。	